

たがじょう

発行日／平成28年7月25日

発行／多賀城高等学校

PTA広報委員会

宮城県多賀城市

笠神2丁目17番1号

TEL 022-366-1225

FAX 022-366-1226

印刷／株工陽社 塩竈市

TEL 022-365-1151



- PTA会長・学校長あいさつ・防災コラム 2
- 写真アラカルト「高校総体壮行式・総体・野球夏季大会」 3
- 職員紹介 4～5
- 学校行事特集「1学年校外活動・2学年出前講座・3学年防災特別授業」 6
- 球技大会特集 7
- 青春の1ページ、熊本地震募金活動、広報委員紹介、編集後記 8

たが
じ
ょう

「楽しもう！ 子供たちの応援団」



PTA会長
柴田 つが子

今年度、多賀城高等学校PTA会長を拝命しました柴田です。

私のPTA活動は「なんか面倒くさそうだなあ。」そんな印象から始まりましただ。それが、今年度で十二年目になりました。つまり、私はその面倒くささと楽しさにどっぴりはまってしまった訳です。しかし、まさか会長を引き受けることになるとは思っていませんでした。ただ「楽しいな」で役員をしてきた私には荷

が重いと新年度当初は悩んでいましたが、今は「楽しもう」と思っています。一年間どうぞよろしく願います。

多賀城高校生に、感心させられることがあります。それは「挨拶」です。保護者の皆さんもお気付きと思いますが、校内で「こんにちわ」の声を聞かないときはありません。生徒は、休み時間にすれ違ふとき、放課後に部活動で走っているときに、礼儀正しく、明るく挨拶をしてくれます。多賀城高校の伝統として、これからも継続してほしいです。

来年度は、宮城県で高校生の大きな大会が二つ開催されます。運動部が目指す「インターハイ」と文化部の頂点である「全国高等学校総合文化祭」です。全国から多くの高校生と先生方、保護者の方がいっしょにいます。この二つの大会で、県外の方にも多賀城高校生の挨拶を知ってほしいと思っています。保護者の皆さんも、

んも、この二つの大会が成功するように応援してください。

小中学校と比べると親が子供の学校に行く機会は少なくなりがちです。私は、子供が多賀城高校に入学して三年目ですが、一年目は校舎の中で迷子になったりもしました。学校に足を運ぶたび、少しずつ学校のことが分かってきて慣れてきました。今では、文化祭のときなど学校中を探検気分でも楽しく歩けるほどです。保護者の皆さんもぜひ行事の折には学校に足を運んでください。学校には、先生方に見守られて伸びやかに学んでいる子供たちの姿があります。PTAは子供たちを見守る応援団です。これからもご支援よろしく願います。



「夢は未来を創る原動力」



校長
小泉 博

保護者の皆様には、日頃から本校の教育活動にご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございます。お陰さまで、本校は今年度創立四十一年目を迎えて新たな一歩を踏み出しました。本県初、全国でも二例目となる防災系専門学科「災害科学科」が開設され「学科体制となりました。東日本大震災から五年が過ぎましたが、本校は被災地にある高校として、学校全体で今後とも防災教育を充実させてまい

ります。

私は本校に赴任して以来、「誰にでも未来を創る能力（ちから）がある」をスローガンに学校経営に当たってまいりました。本校は被災地にあり、辛い体験をしている生徒や厳しい生活環境にある生徒に前を向いて欲しいと考えたからです。また、「災害科学科」という科名に負のイメージをもたないように、準備に当たった教職員にも未来志向を強調したかったためです。もちろん、全ての生徒に未来を創る能力（ちから）が備わっており、この能力を伸ばすことで自分の人生を切り開き、社会に役立つ仕事に就き、社会貢献していくものと考えております。

連続TV小説「あさが来た」のヒロイン白岡あさは、大阪を拠点に活動した実業家で教育者の広岡浅子がモデルです。彼女は、銀行や生命保険会社を創設し、

さらには女子大学を日本で初めて作りしました。彼女は銀行を創ろうとした際に、日本資本主義の父と言われる渋沢栄一に助言を求めました。その渋沢栄一は次の言葉を残しています。

「夢なき者は理想なし、理想なき者は信念なし、信念なき者は計画なし、計画なき者は実行なし、実行なき者は成果なし、成果なき者は幸福なし、ゆえに幸福を求むる者は夢なかるべからず。」

私は、夢こそが未来を創る原動力だと考えています。そして、私たち教職員は生徒と一緒に未来を創りたいと考えています。どうぞ、ご家庭にあっても子どもたちの夢を大事にしてください。多賀城高校での全ての学びは、生徒一人ひとりが思い描く夢を自らがたしめるため、欠かせないものだと思っています。

防災コラム

4月には「平成28年（2016年）熊本地震」が、6月には北海道函館市で震度6弱の地震が発生した。どちらの地震も活断層が壊れてずれることにより発生した「内陸型地震」だ。一説では、日本には2,000以上の活断層が存在しているという。もちろん宮城県にも存在する。いつ、どこで「内陸型地震」が起きてもおかしくないのだ。あなたの「備え」は大丈夫だろうか？

「自助」「共助」「公助」とよく言うが、私は「自助」が重要だと考える。自分の命を守ることができなければ、他の人の命を守ることはできないからだ。「自助」には、「災害発生時の瞬時に判断・行動ができる力」「平時の生活環境にあるハザードに自ら得るものを見つけて減らす力」が必要である。

今回は後者について考えてみよう。自分の家にいるときに地震が発生したとして、次のことを考えてほしい。

- ①居間に落ちてくる・倒れてくる・移動してくるものはないか？
- ②寝室で寝ているところに落ちてくる・倒れてくる・移動してくるものはないか？
- ③玄関までの廊下に避難するとき邪魔になるものはないか？
- ④普段スリッパを履いているか？

自分の家を想像して、実際に部屋を見渡してハザードがあったら、すぐに無くす・減らす行動をしてほしい。具体的に行動してこそ「防災・減災」だ。

今回、「自件事」として考えたことが重要だ。自分の生活の場に当てはめて考え、自分で獲得した判断や行動は「確かなもの」となり、とっさのときにも役立つ。

日本は「自然現象」による災害の多い国だ。この自然現象は、地球が生きている証である。人間がコントロールできるものではない。私たちは、地球に住まわせていただいている。そのことを忘れてはならない。「防災・減災」は地球に住む上での作法であり、地球に生きる「当たり前」なのだ。

高校総体壮行式・総体・野球夏季大会



●1学年 校外活動

■オリエンテーション

5月2日、秋保リゾート森林スポーツ公園において1学年の校外オリエンテーションが行われました。入学後のオリエンテーションの一環として、友人同士や教員との親睦を深めるものです。豊かな自然の中で、普段の学校生活とは一味違った経験ができ、素敵な笑顔がたくさん見られました。

●1年3組 新沼歩奈さん●

私達1年生にとって初めての行事であった校外オリエンテーションでは、午前中にドッジボール、昼食にはバーベキュー、午後はFriendshipを行いました。ドッジボールでは、クラスで2つのチームをつくり、両方のチームとも皆で協力



し合い、全力で試合に臨んだ結果、両チームとも優勝することができ、とても嬉しかったです。昼食のバーベキューでは、男女混合の班で最初は若干遠慮がちではありましたが、だんだんと遠慮もなくなっていき、美味しいお肉も食べられて最終的には皆楽しくバーベキューができたと思います。また、Friendshipでは惜しくも1位は逃しましたが、一人一人クラスに貢献しようと頑張っていました。結果的に総合優勝はできなかったけれど、この校外オリエンテーションを通してクラスの団結力と親睦が深まったと思います。この団結力を球技大会や体育祭にも生かしていきたいと思います。



●2学年 出前講座

4月26日に「学問研究講演会」を行いました。文系は山形大学教授三上英司先生、理系は岩手大学教授高木浩一先生・助教高橋克幸先生に講義とワークショップをしていただきました。生徒が大学での学問と学習についての理解を深めるとともに、進路について具体的に考える機会となりました。

●生徒感想●

◆文系

漢字一つ一つがとても深い意味をもっていることを知り、かなり驚いた。今まであまり古典や歴史には興味はなかったけど、もっと深く知りたいと思った。

◆理系

講演では、テーマから話題を広げていくグループワークや簡単な器具を使った実験などを行った。自ら行動したり、考えたりすることばかりでとても楽しかった。



●3学年 防災特別授業

5月30日、防災授業として3年1組・5組で榊アソボット本谷忠氏による震災復興事業に関わる会社の活動や社会支援についての授業をしていただきました。また、3年6組・7組で榊八千代エンジニアリング寺脇学氏による災害発生時の自助共助のあり方について図上訓練ワークショップを含めた授業をしていただきました。

■生徒感想■

図上訓練で感じたことは、避難する際のルートや避難場所の数に対する答えは一つではなく、状況に合わせて変わるということだった。自分たちも震災を体験してきたが、実際に必要になってくる物資はその地域の被害状況によって異なるため、一人一人が、その状況になったことを考えて、あらかじめ準備していくことが大切なのだった。災害はいつ起きるかわからないので、日々どういったルートで逃げるか、何が必要か考えていきたい。





球技大会特集

球技大会を終えて

実行委員長 佐藤 遙

今年度の球技大会も大いに盛り上がりましたね。生徒の皆さん、ご協力ありがとうございました。

今年度は、2日目が雨天のため、ドッジボールを卓球に変更しました。うまくいくか心配でしたが、実行委員の柔軟な対応と先生方の協力のおかげで、選手に楽しんでもらうことができました。

運営では、想像以上に仕事が多くて大変でした。しかし、実行委員長という立場に立ったことで、コート作りや審判等をしていただいた部活動やたくさんの先生方の協力で球技大会が成り立っていることを実感できました。感謝の気持ちでいっぱいです。

最後に、約1ヶ月半の間、一緒に準備をして、当日も盛り上げてくれた実行委員の皆さん、本当にありがとうございました。

来年は、今年を上回る素晴らしい球技大会になることを願っています。

◆クラT賞紹介◆



▲生徒賞 3年3組



▲先生賞 2年7組

◆球技大会 結果◆

	1位	2位	3位
男子バレー	2-5	3-5	3-1, 3-6
女子バレー	3-3	3-2	3-1, 1-5
男子バスケ	3-4	3-5	3-2, 3-3
女子バスケ	3-7	3-2	3-3, 2-5
サッカー	3-3	2-1	3-7, 2-4
ドッジボール・卓球	2-3	3-4	3-1, 2-6
総合優勝	3-3	3-4	3-7

教頭 佐藤 彰彦

高校に入学した頃までは「数学」が好きだった私が「英語」の教師を目指すきっかけとなった出来事が、高校一年生の時にあった。それは、「英語」の定期考査で赤点をとったことだった。

当時の私が受けていた英語の授業は、現在高等学校で行われているような授業とは全く違うものだった。生徒がすべき予習は、教科書の英文を和訳しておくことであつた。授業では、指名された生徒が教科書の英文を一文読み、その和訳を口頭で発表するという流れで進んでいた。和訳が繰り返された。時々、発表した和訳について先生が質問した。使われている単語の品詞や和訳の根拠となった文法の説明等が求められた。正しく答えられなかったりして予習が不十分だったことが分かったと、出席簿を用いたご指導を受けた。一定の範囲まで和訳が進むと、後はひたすら音読であつた。私達生徒に不満は全くなかった。高校の英語の授業はそんなものだと理解していた。しかし、私は「英語」に興味を持ったり、まして好きになつたりする

ことはなかった。

さて、最初の中間考査となり、「英語」では和文英訳の問題が出題された。答えには自信があつたが、後日返却された解答用紙では不正解となつていた。どこが間違つていたのか質問したが、その時の答えは、「教科書に載っている通りでないから。」というものであつた。衝撃だった。また、納得できなかった。そこで期末考査に向けて私のささやかな抵抗が始まった。教科書の本文を全て別表現に書き換えた。辞書や文法書を使い、相当時間をかけて勉強した。

期末考査では全て教科書とは違う英文を書いた。そして全て不正解となつた。赤点であつた。追指導はなく、次の考査で挽回しなければ、進級できないと言われ、私のささやかな抵抗は終わった。ところが不思議なことに、英語への興味が強くなり始めていた。大学では言語学を学びたいと思い、それが進路目標となつた。ささやかな抵抗の結果で赤点をとるという経験がなければ、英語の教師になるということもなかっただろうと思う。当時の英語の先生には感謝している。



熊本地震募金活動報告

「熊本地震」の被災地支援のため、生徒会執行部とボランティア同好会のメンバーが、多賀城駅や下馬駅を中心に募金活動を行いました。熱心な呼びかけに、多くの方が募金に協力してくださいました。また、各クラス、職員室で募金を呼びかけ、吹奏楽部のコンサートにおいても募金箱を設置したところ、たくさんの募金が集まりました。ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

これらの募金は、熊本県立東稜高等学校と御船町立滝尾小学校に届けられ、教育復興に役立てていただきました。

夏休み中には、代表生徒が熊本の避難所を訪問して被災した方々に募金を手渡ししてくる予定です。

私たちの思いや行動が熊本の力となります。熊本の一日も早い復旧・復興を願ってやみません。今後とも、本校の防災活動やボランティア活動に対し、皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。



広報委員名簿

▼1学年

宮下美智子・味上 美紀・小松 晴美

▼2学年

阿部早智子・笠原かおり・佐藤 直美
太齋 洋子・阿部 由美・丹野 京子
玉田 恵美・石山美保子

▼3学年

齋藤 美保・前田 美紀・阿部真喜子



編集後記

新年度は三名の委員を迎え、十四名でスタートいたしました。新たに開設された災害科学科の取り組みを始めとし、部活動や学校行事でのお子さん達の活き活きとした姿をたくさんお伝えしたいと思えます。

広報委員